

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	「アクティブ防災」でつくる、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		
事業開始年度	平成31年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人MAMA-PLUG	担当課名	災害対策課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・防災セミナーについては、中間ヒアリングで御提出いただいたアンケート結果からも、非常に満足度の高い内容であったことがうかがえました。事業対象者を妊婦や2歳までの子どもを育てている保護者、幼児教育現場の職員とするなど、しっかりターゲットを絞り、さらに、実績のある団体と市が協働したことで、平塚市としての課題であった「具体的な啓発を講じづらかった市民」への防災メッセージがしっかり伝わったことと思います。
 - ・決算報告書からは、予算との増減がいくつかの項目であったものの、内容の充実を図り、より効果的な使い方を模索したことが読み取れました。
 - ・団体の拠点が都内にあることで、お互いの情報共有に課題が生じないか心配な面もありましたが、それぞれの自己評価シートの中で、メールや電話でも頻繁にやりとりを重ね、問題なく事業を進めることができたとありました。手段は何であれ、密にコミュニケーションをとることが、よい事業につながるのだと感じました。
 - ・親子向けの防災冊子も実際アンケートを基に作成されており、またセミナーも平塚独自の事実内容になってきたので良かったと思います。さらに協働により防災所管部署と連携して新しく市民に向けた取組として形にすることができて良かったと思います。
 - ・ターゲットを妊産婦や若い世代の保護者に絞り込んで取り組んだことによって、災害対策課が普段あまり啓発活動を展開しにくい層にしっかり防災の必要性が届いた点が良かったと思います。
 - ・防災ピクニックなど団体が得意とする楽しい防災セミナーができたようですが、発行した「親子防災」の冊子にもそのノウハウをイラスト付きで掲載していただけたら、参考になったのではないかと感じます。
 - ・セミナーは着実に成果をあげていると思います。
 - ・セミナーが計7回開催され、冊子も予定通り作成されたことは評価します。今後も充実を図っていただきたいです。
 - ・市が実施する防災に係る講演会等の事業は、一般的、広く受け入れ易い内容となりがちです。この協働事業は災害弱者になり易い者を対象に、その特性等を踏まえたもので、参加者によっては、より実践的な防災活動に繋がり、その効果は高いものと考えます。
 - ・妊婦や2歳までの子どもの保護者向けの防災知識の取得、啓発について、民間のノウハウを活かして参加しやすく、わかりやすく工夫したアプローチが大変良いと感じました。特に屋外での防災ピクニックや手に取って読みたくなるようなビジュアルの親子向け防災冊子などに代表される、楽しんで参加できる事業の特色をさらに伸ばしていくとよいと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・参加者が集中して受講できる環境づくりのために、会場の工夫や保育士の配備など、改善提案もされています。当初の予定通りの実施が難しい状況であるとは思いますが、非常時である今だからこそ団体の持ち味が発揮されるのではないかと期待しています。
- ・広報に関しては、若い世代は、WEBの子育て世代向けイベント情報サイト、SNSを通じた口コミで情報を得ることも多いと思います。子育て支援センターなどの子育て施設へのチラシ配架や、乳幼児健診などの際に一緒にお知らせするのも効果的ではないかと思えます。
- ・より多くの人に活動を知ってもらうように、広報ひらつかや各課窓口だけではなく地域のサイトなどを活用してさらに広めて頂けたらと思います。
- ・防災教育はまずは教員からの研修ですが、セミナーの数も少なく時間も短かったようでもっとじっくり実施していただけたら良かったのではと思います。是非私立幼稚園でも開催していただけると良いのではないのでしょうか。
- ・新型コロナウイルス感染拡大を防止するため今年度の協働事業の活動は難しい面が多くあると思いますが、小さなお子さんの保護者の方は相当大きな不安を抱えていると思います。コロナ禍の複合災害を含めた啓発活動の提案をしていただくと良いと思います。
- ・次年度も継続することだけでなく、協働事業後の展開の見通しを明確にした方が良いのではないのでしょうか。
- ・平塚市の実情にあったとしているが、市の対策がどうなっているのか情報提供が必要ではないのでしょうか。セミナーで十分に行っているのでしょうか。
- ・冊子作成について、平塚市に特化したものであるとのことだが、1ヶ所のみ記述にとどまっています。本市の災害状況を分析され、地域性を踏まえたものに高めていただきたいです。
- ・妊婦や子育て中の者に配慮された避難所運営に繋げるために、セミナーに各避難所運営委員会のメンバー等に参加してもらうことはどうでしょうか。
- ・この事業の対象者である妊婦や2歳までの子どもの保護者への周知が第一だとは思いますが、それ以外の一般の市民などに周知することで、事業への認知とともに対象となる世代への口コミ効果といったものが期待できるので、チラシや広報、タウン誌などを通じた幅広い世代への周知、広報を進めてもらえればと思います。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	図書館におけるボランティア体験を通した不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成31年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人ぜんしん	担当課名	中央図書館

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・図書館という公共施設が、当事者にとって信頼でき、安心感のある社会との接点になる場所として活用された点で、とても意義深い事業であると感じました。また図書館による自己評価シートでも「本の補修を図書館の要求する完成度で行うことができた」と、当事者によるボランティア活動が、図書館利用者の利便性向上に役立つことが示されており、双方にメリットがある事業として今後さらに発展させていってほしいと思います。
 - ・中間ヒアリングの際に、マニュアル作りに苦労されているような話がありましたが、報告書によると無事完成できたようで良かったです。
 - ・図書館ボランティア体験「振り返りシート」まとめ（アンケート集計）の最後に「修繕した本がまた本棚にならぶと思うと嬉しい」という記述がありました。自分のしたことが誰かの役に立っていることが想像できる、社会とのつながりを実感できる、そんな自立に向けての大事な感情が生まれ、温かい体験現場であったことが想像できました。
 - ・協働事業として図書館の新フィールドを使って挑戦し、トラブルもなく当事者が生のボランティア体験を経験することができ本当に良かったと思います。
 - ・作業マニュアルができ、ボランティア体験の試験実施で参加者が予定より多く、皆やりがいを感じたということで、これからの本格的な取り組みが期待できます。しかし、今年度発生した感染症の問題が心配です。図書館使用が再開できたら慎重な実施をお願いしたいです。
 - ・作業マニュアルでの進め方のうち「ひきこもりなどで悩む方の特徴に沿ったアドバイスなどについて」考慮して作成した面もあると思うので、今回の図書館での取り組みだけでなく、これから色々な場面で活用できることを望みます。
 - ・丁寧なマニュアル作りは評価できます。しかし、他の仕事（まず市役所？）をぜひ考えてほしいです。
 - ・マニュアルが完成するとともに、2/5には「体験」が実施できたことは、評価したいです。
 - ・図書館で、作業が滞っていた図書修繕等が行われたことは、図書館利用者のメリットにも繋がるもので評価できると思います。
 - ・ひきこもり状態にある若者に対し、従来の家庭以外の居場所の提供からさらに取り組みを進める場合、行政は最初に就労支援を目指しがちですが、まずはよりハードルが低く、参加しやすいボランティア体験という着想が、民間団体ならではの当事者目線であり大変良いと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・新型コロナウイルスの影響で、活動自体が難しくなっているかもしれませんが、これまで一步一步着実に前へ進めてきた市との協働による「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」の取り組みは、途切れさせないよう継続していかれることを願っています。
- ・今年度の目標である作業用マニュアルを完成することができたので、今後引き続き事業も継続していけるよう、体制の構築に向けて頑張ってもらえたらと思います。
- ・職員がこなせず、保留となっていた本の修繕・書架整理等を行うことができたとのことで素晴らしい成果があったと思います。ひきこもりの当事者の方々が作業を通して自信を付け、次々と体験当事者が新しい挑戦者の方に引き継いでいけるようなシステムも構築すると良いのではないかと思います。
- ・これからの財源確保として受益者負担も検討していくとのことですが、発展の為に良い形で実現していければと思います。また、先進事例の経験団体からのアドバイスも受けるようにして下さい。
- ・「一連の支援プログラムの利用者から負担をいただく」との趣旨がよくわかりませんが将来的には雇用か、雇用に近いかたちを検証する必要があるのではないのでしょうか。
- ・事業の性質から、慎重を期するのは理解するところですが、マニュアル作成作業などは、もう少しスピード感があってもよいのかと思います。
- ・相互評価シートに記載がありましたが、ボランティア体験の内容や参加者数等、本来事前に把握が必要な基本情報が共有されていない点は、事前の情報共有を適確に実施してほしいです。
- ・「今後の具体的な展開」において、支援プログラムの利用者から負担をいただくことについては、負担に見合う結果や見込みが必要です。多種多様なプログラムを整え、参加者が興味を持つようなものを幅広く準備する必要があります。
- ・ひきこもり状態に至るまでには、個々に千差万別の事情や原因があると思います。このため、それぞれの個人の事情にあったアプローチが求められ、その支援も非常に難しくなってくるのではないのでしょうか。既に着手済みかも知れませんが、同様の取り組みを行っている他の団体と連携を図り、現在の事業のブラッシュアップとともに、他団体による得意分野での連携支援も視野に入れてみてはどうでしょうか。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	平塚市生物多様性保全推進事業		
事業開始年度	平成31年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	ひらつか生物多様性推進協議会	担当課名	環境保全課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・報告書の中に「協働事業の成果のパンフレットをウェブに掲載」とあったので、平塚市のホームページを検索し、「ひらつかの生きものの命つないでいこう～ひらつか生物多様性推進協議会の取り組みと令和元年度調査対象エリアの紹介」を見つけました。調査の様子や多様な生きものの色鮮やかな写真を興味深く拝見し、事業の成果の一端を垣間見ることができました。
 - ・人件費明細書から、この事業にはとても多くの市民の方が関わっていることがわかりました。アクションプラン策定のために、多くの専門的知識のある団体や市民、企業、学識経験者と行政担当課が、それぞれの立場を尊重しながら役割分担し、協力して事業を進められているようなので、最後までしっかりやり遂げてくださることを期待しています。
 - ・市のウェブなど担当課も協力して生物多様性保全の考えを広めることもでき、かつ市民向けの自然観察会も開くこともできて良かったと思います。
 - ・各エリアの計画通りの調査が進んでいて普及啓発事業も実施できたということですが、基礎データを収集することができたとのことで、それぞれの専門性のあるメンバーの活躍がこれからもスムーズに進むことを望みます。
 - ・市民向けの啓発活動も実施し、生物多様性の重要性を発信することができたということですが、自然観察会にしても色々な種類の活動があると思いますので、幅広く市民のニーズもキャッチして実施していただきたいと思います。
 - ・丁寧な調査内容が想像できます。
 - ・報告会ができず、市民への啓発の意義が確認できなかったのは残念です。
 - ・概要版が作成できたことは評価したいです。次年度における内容の盛り込みに期待したいです。
 - ・年度末に予定していた活動報告会が中止となったことは残念です。市民に身近な自然環境をより深く理解してもらうための啓発活動は、市民意識を高揚させ、生物多様性の保全を深く理解し、保全活動を実践する者を増やすことに繋がると思います。
 - ・活動実績報告書から、市内の里山や河川などで、平塚市内の生物の状況を調査する活動について、複数の調査エリアで多くの市民が観察会などを通し、自然に触れ実際に活動できたことがよかったと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・「相互」評価シートの(4)その他、課題やその改善方法など、の項目で「調査結果のとりまとめについて、お互いにスケジュールの共有をさらに強化する必要がある」との記載がありました。多くの人に関わっている事業であるがゆえに、この時期のコミュニケーションの取り方には難しさもあるかと思いますが、目標達成に向けて頑張ってください。
- ・今度のコロナウイルスなどの影響もあると思いますが、スケジュールを意識して活動ができるように調整して頂けたらと思います。
- ・新型コロナウイルスの問題が長引きますが、調査が順調に展開できるか心配しています。環境保全課とスムーズに進める工夫を協議することと思いますが、市民向けのイベントなどの活動ができない場合、WEB 発信なども利用して市民の皆さんにもこの目的を知っていただき関心を持ってもらうような企画も大切だと思います。
- ・生物多様性の環境を守るためにはどうしたら良いかなど、4つの危機の打開策を目指す調査や評価書作成を期待しています。
- ・令和2年度は、市民の反応を確かめる機会を確保し、評価書作成後の啓発をイメージしながら事業を進めて欲しいです。
- ・スケジュール進行管理は、基本的事項である一方、困難な作業でもあります。コロナ禍の中での作業となることから、工夫されることを期待します。
- ・今般の調査から、最終的な評価書へどうつながっていくか、共通認識としておくことが必要と思います。
- ・令和3年度の自然環境評価書の策定を踏まえ、調査事業及び啓発事業をしっかりと実施して欲しいです。自然環境評価書が市の計画策定の基礎となるものであり、特定の生物や地域に特化されたものとならないよう進めてください。
- ・会議等開催は、事業の進捗を踏まえ、事前調整等をしっかりと行うよう努めてください。
- ・行政内部、団体内部、あるいは行政と団体間で意思疎通を密に行い、節目節目でスケジュールをお互いに確認し合うなどして、自然環境評価書の取りまとめを目指してください。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業		
事業開始年度	平成 29 年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人 湘南 NPO サポートセンター	担当課名	協働推進課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・ 報告書の評価シートから、団体と担当課の双方が事業の目的をしっかりと共有し、十分に協議を重ね、適切な役割分担をしながらセンターの運営にあたってきたことがよくわかりました。アンケート調査結果報告書からも、協働運営に対する満足度の高さに加え、職員の丁寧な利用者対応、情報提供や講座・イベントなど事業への高評価など、この3年間の成果と市民の期待感が読み取れます。特に相談事業において件数が増加しているのは、中間支援団体として地域に根差して活動してきた団体の信頼と実績、専門知識を持つ市民活動団体との連携が実を結んだ結果であると思います。
 - ・ 様々な研修機会を設け、積極的に職員個々のスキルアップを図ってきたことに対しては、今後も継続してセンター運営を担っていこうとする団体の強い責任感を感じました。
 - ・ 公民館とともにあるセンターとして、まつりなど交流イベントの開催、団体の相互利用の推進など、メリットを十分に活かした取り組みも良かったと思います。
 - ・ 公民館や地域との連携も協働推進課の地域団体のつながりなど相乗効果ができて活性化につながって良かったと思います。
 - ・ 見附町への施設移転後の公民館との連携も良好で、情報発信の成果もあり、新しい企画も打ち出し順調に飛躍をしようとしていた運営事業が、今年に入ってすぐの新型コロナウイルス感染防止の為に施設も使用できなくなり進まず大変残念です。
 - ・ 施設使用ができ皆が活動再開できるように、それなりの対策や準備を行っているとは思いますが、今まで通り団体交流事業の充実やアンケート結果を活かした運営を望みます。
 - ・ センターの独立運営に向けて、着実に進んでいるものと評価できます。
 - ・ 他の組織との連携も積極性を感じます。
 - ・ 協働事業の最終年度として、センターの運営や機能強化、団体の育成支援等において、成果に至ったことが感じられます。
 - ・ 市民活動団体の当事者としての視点、専門性を踏まえた運営が実施されたものと思います。市民活動センターの機能強化が進んだことは、今後の施設運営の基本モデルとなるものと思います。
 - ・ 行政側である協働推進課が本庁へ移転する中で、団体のみでセンター運営を行い、相談件数を大幅に伸ばしたことは大きな成果であり、平塚市の協働事業の好事例であると感じました。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・会議室の予約や備品や消耗品の管理など、施設の維持管理業務に関しては、常に問題なく快適に利用できる状態にしておくことが当たり前と思われてしまうので、プラスの評価を得ていくことが難しいところでもあります。物理的に改善が不可能なことや、利用者のニーズも様々で、すべての要望を取り入れることは難しく、時に効率重視になりがちですが、同じ市民の立場にたって、利用者の声をひとつひとつ丁寧にすくい上げ、一緒に考えながら利便性の向上に努めていくことが大事かと思えます。
- ・コロナウイルスの影響なども対応が大変ですが、力を合わせて引き続きがんばってもらえたらと思います。
- ・このコロナ禍の事態は長引いたり、また気を緩めると危険な状態に戻ったりすることも考えられ、ピンチはチャンスとも捉えて時代の転換期の対策やシステム構築を考えなくてはならないと思います。各市民活動団体もリモート会議などの実施を始めているのではないかと思います。市民活動センターはその指導など旗振り役も担う訳ですから、段階的民営化の協働事業も新しい対応システムの導入なども考えていかなければならないかもしれません。
- ・市民センターなどが完成した場合、平塚駅から西側の再開発地域が文化の拠点ともなるので市民活動センターと各市民活動団体や公民館、地域の人、若者たちとも力を合わせ、平塚の魅力的なまちづくりに貢献できる展開を、ネットワークを駆使して進めていただきたいと願っています。
- ・独自財源に基づく事業は、当該事業報告にはあがっていないものと思いますが、的はずれかもしれませんが、コロナの影響でNPOの活動が止まっているところ、その影響で財政的に苦しいところもあると思います。これに対しての支援も市の負担も含めて考えていただけると幸いです。
- ・当該事業は、3年間の協働事業制度を卒業し、市からの委託業務となりました。今後は、指定管理者制度への移行など、さらなるステップアップを検討すべきと思います。
- ・見附台地区のまちづくりとともに、市民活動センターの利用拡大が進むと新たな課題が生じる場合もあります。関係機関、関係団体等との情報交換を行いながら、課題の未然防止に努めてください。
- ・民間としての活動実績、ノウハウにより、今後建設される文化芸術ホールを活用し、幅広い市民や若い世代が利用できる取り組みを進めていただきたいと思います。